

S06a

2型クェーサー IRAS P09104+4109 のダスト・トーラスの検出

谷口 義明、佐藤 康則、村山 卓 (東北大理)、川良 公明 (東大理)、毛利 英明 (気象研究所)

我々は赤外線天文衛星 (ISO) を用いて 2 型クェーサー IRAS P09104+4109 (P09104) の中間赤外分光観測を行ない、ダスト・トーラスに特有なフィーチャーを検出することに成功した。Pier & Krolik (1992, ApJ, 401, 99) のトーラスモデルと比較することにより、P09104 のトーラスの物理的性質を明らかにすることができた (表 1)。講演では、本研究の成果に基づき、2 型クェーサーに関する諸問題を議論する。

(Ref. Taniguchi et al. 1997, A&A, in press)

Table 1. The most plausible dusty torus model for P09104

a/h^1	i^2 (degree)	f^3	a^4 (pc)	b^5 (pc)	h^6 (pc)	M_{gas}^7 (M_{\odot})
0.1	60	0.98	1.9	2.3	19	4×10^7

¹ The inner aspect ratio. ² The viewing angle. ³ The covering factor. ⁴ The inner radius of the torus. ⁵ The outer radius of the torus. ⁶ The full height of the torus. ⁷ The gas mass associated with the torus [see equation (1) in Pier & Krolik (1992)].